



スプリングボード提供活動の勧め

第一生命経済研究所 特別顧問 山口 公生

忘れてはならない自らやるべきこと

現下の経済情勢はきわめて厳しいものがある。アメリカ発の金融危機に端を発した世界同時不況は实体经济に深刻さをもたらしている。

わが国も、あらゆる手段を講じて不況対策に取り組まなくてはならない事態である。

ただ、景気を元に戻すだけでは将来に希望が持てる良い国になるとは限らないということも意識しておく必要がある。

忘れてはならない大切な課題は、景気を回復させた後に、どのような姿の経済社会を迎えようとしているかである。これまでのようにすべてを金銭的価値や経済合理性だけで判断し、一人ひとりの幸せがGDPなどマクロ的な議論に埋没してしまうような社会を再現するのでは、好不況を繰り返すだけの社会になってしまう。

ともすれば、われわれの関心が経済のみに向かいがちな点にも反省が必要である。「お金がすべての社会」は決して国民を幸せにはしないことは今回の騒ぎがよく物語っている。

われわれは今、公的セクターに景気回復や社会保障制度の整備などを期待しつつも、それにまかせきりにするのではなく、社会作りへの貢献を自らやるべきこととして自覚し、それを実践していく心構えが必要ではないだろうか。

国民一人ひとりの質を高めるためにできること

近年、国民一人ひとりの質の低下が心配されている。能力の面のみならず、教養、倫理などの面でも日本人はレベルが下がったとの指摘がなされている。これは残念ながら否定できない。

これまでは、人づくりといっても経済成長の観点から生産性向上のため技術や能力をいかに向上させるかという、人を生産要素として見る視点が多かった。

それも大切なことではあるが、さらに重要なこ

とは国民一人ひとりが日本に生まれてきて良かった、あるいは住んで良かったと思える国にするために、何をすればよいかということである。

自己実現の機会があつてこそこの世に生まれてきた甲斐があるというべきで、経済成長もそれをサポートするものと考えべきであろう。

一橋大学の塩野谷名誉教授は社会保障の概念について、市場経済制度の過程および帰結に対して国家が補正および補完を行う制度である、として二つの目的を掲げておられる。

ひとつはセーフティネットであるが、もうひとつは、個々人の自立を助け、能力を開発し、社会にかかわっていく中での自己実現の機会を保障するような、いわばスプリングボードを用意することとされている。社会保障の概念を広く捉えようとするものである。

残念ながらこの考え方はまだ一般によく理解されていないようであるが、この指摘の中にこれからの行動指針があるように思う。

スプリングボードとは体操競技の踏み切り板、比喩的に飛躍のきっかけをさす。

国が行っている教育もこのスプリングボードを提供する役割と考えても良い。

しかし、これは何も国家のみが提供するものではないと思う。われわれ個人でも家族単位でも会社でもNPOでも身近なところでできることである。

尊敬する人から受けた教えがきっかけで学問の世界で大きく成長した人は数知れない。

子供のころ受けた教えが生涯の精神的な支えになっていることもある。また、成人してからも迷ったときに相談できる人の存在は貴重である。

先輩が苦勞話をしてあげる、ためになる本を紹介してやる、優れた人に会わせてやるなど、ささやかなことであっても、そのことが飛躍のきっかけになることもある。

こうしたことは誰にでもできることではないだろうか。

聞いた話では、中国の客家では尊敬されている老人を子供たちに合わせる習慣があるという。

会社でも昔は新人に対し皆が寄ってたかって教えるのが当たり前になっていた。

集団としてみても、東京の八王子では地場企業の目線に立ち、退職した大企業出身者が自らの経験をもとに、ビジネスモデルから販路開拓まで実務のサポートをやっている協議会がある。

要は、スプリングボードは自分以外の者に対してその人の人間性や能力が向上するように手を貸してあげることには他ならない。

自分のためではなく、他人の向上のために尽くす。見返りを求めないが、他人の成長が自分の喜びとなって返ってくる。

もちろん企業においても人材育成に力を入れているが、成果主義の中では本当の意味での人間形成に役に立っていないとの指摘がある。

心と心のふれあいを通して人格と能力を高めてあげることが、よりよい社会を作る最もよい方法ではないだろうか。それにはそれぞれの人がこれまでの経験を活かし、得意な分野でいろいろな貢献のやり方を考えていくことも重要である。

最近、海外でこういう話を聞いた「近年、日本人が見直されている。傍若無人に振舞う人達が多い中で、比較的穏やかであり、信頼できるからである」と。

若干皮肉も込められているかも知れないが、わが国の人々もまだ捨てたものではない。

ただ、油断は禁物。人は次第に入れ替わっていく。子供や若い人たちを皆で育て、良い国にしていくために、それぞれがスプリングボード提供活動を始めませんか。